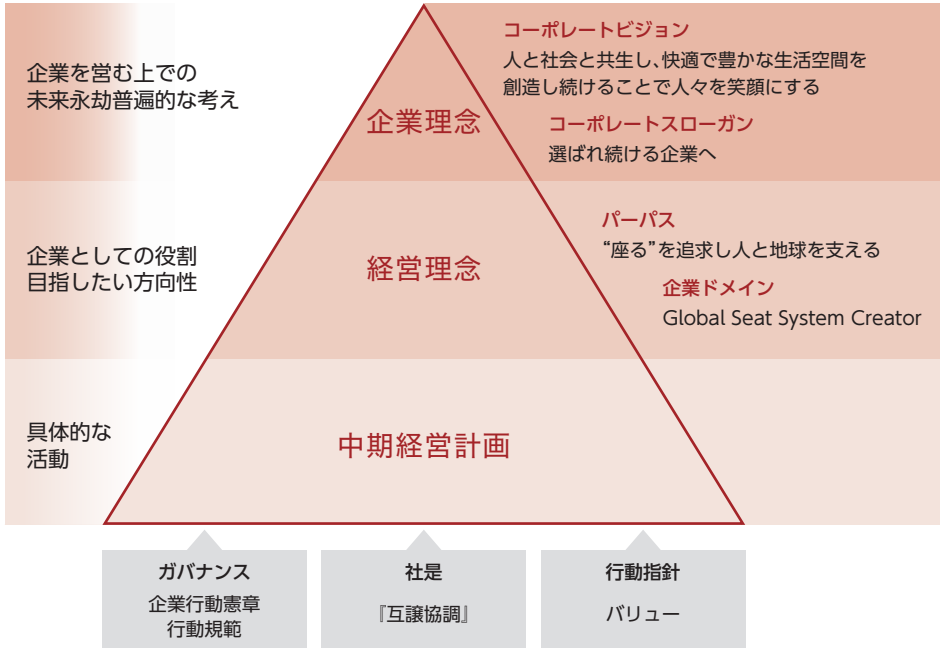
社是

『互譲協調』

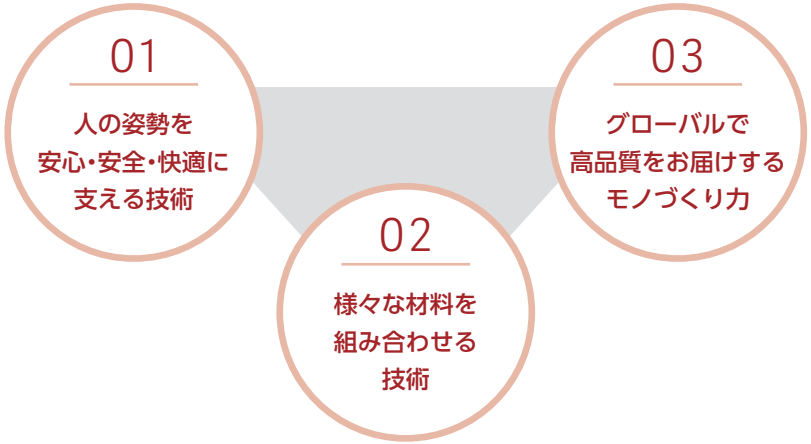
人間の集団や人間関係にとって大切なことは「和」を保つことであり、
そのためには譲り合いの精神を持つことが重要であると説いた
創業者 齊藤 信義 氏の教えに基づき、
企業のステークホルダーとの信頼に基づく真のパートナーシップを築き、
社業の発展を通じて社会に貢献していきます。

タチエスグループの理念体系図



コーポレートビジョン

人と社会と共生し、快適で豊かな生活空間を創造し続けることで人々を笑顔にする



社会的価値、経済的価値を提供し、持続可能な社会の実現に向けて
タチエスの存在意義（企業活動の軸）を定義しました

パーパス

“座る”を追求し人と地球を支える

人（姿勢）を支える

一日の30％を占める“座る”という姿勢やその他様々な姿勢に心地よさ・安全・安心を提供し、人々の豊かな生活と健康に貢献します。

人を支える

事業を通じ、すべてのステークホルダー、社会を支えます。

地球を支える

当社創業者の教えである『互譲協調』の精神に基づき、SDGsへ取り組むことで地球との「和」を保ち、地球にとって心地よい持続可能な世界の実現に貢献します。

At a Glance

売上高

269,009 百万円

売上高は日本の販売台数減少影響と、北米の日産向けビジネスの閉鎖及び中国において事業会社を持分法適用会社へ変更した影響により減収となりました。

営業利益

11,604 百万円

営業利益は継続して取り組む収益改善や構造改革の効果により増益となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益

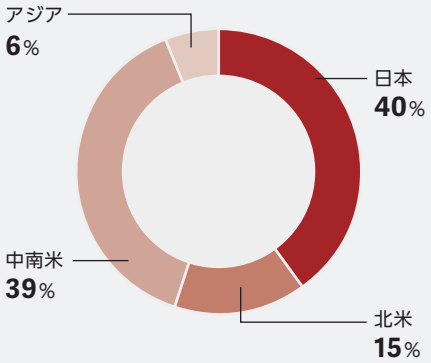
9,297 百万円

親会社に帰属する当期純利益は、前期の固定資産売却益や関係会社などの株式売却益の剥落により減益となりました。

自己資本利益率（ROE）

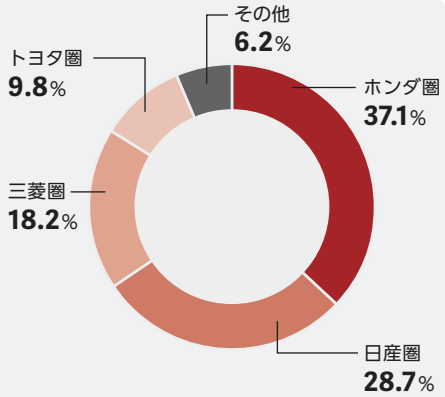
9.2 %

セグメント情報売上高



売上高については、日本の販売台数減少と、北米の日産向けビジネスの拠点の閉鎖及び中国において一部の事業会社を持分法適用会社へ変更した影響により、前年同期比5.7%減少の2,690億円となりました。

連結圏別売上高



北米の日産向けビジネス拠点の閉鎖と中国の一部の日産向け事業会社を持分法適用会社へ変更した影響により、日産圏が減少いたしました。

研究開発費

4,713 百万円

設備投資額

4,657 百万円

総資産

170,372 百万円

純資産

105,904 百万円

1株当たり当期純利益

271.03 円

1株当たり純資産額

3,055.91 円

1株当たり配当額

105.00 円

女性管理職比率

5.5 %（単体）

4.8 %（連結）

『互譲協調』の精神のもと、成長を続けていきます。

当社は1954年の創業以来、自動車シート一貫メーカー（開発～生産まで）として歩みを続け、現在は9カ国、53拠点で多くのお客様に商品、サービスを提供しております。タチエスグループは、「人と社会と共生し、快適で豊かな生活空間を創造し続けることで人々を笑顔にする」というビジョンを定めています。その底流には社是とする『互譲協調』の精神があります。『互譲協調』とは、「人と人との和」を大切にし、思いやり・助け合いの精神のもと、何事にも使命感と自責心をもって臨み、組織の相乗作用による高い目標・目的を達成することで、社会や社業に貢献する姿勢を意味しており、当社創業以来脈々と受け継がれている基本的な価値観です。

創業者 第二代社長
齊藤 武二 氏

創業者 初代社長
齊藤 信義 氏

1950年代

1954年：4月7日、個人企業を法人化し東京都立川市に「立川スプリング株式会社」を設立。この日を当社の創立記念日と定める。
1959年：受注量増大のなか、東京都昭島市へ新工場を建設し、本社移転。

1960年代

1961年：自動車シート事業から機械用精密スプリング部門を分離独立させ、立川発条株式会社（現（株）タチエスH&P）を設立。
1969年：東京都青梅市に青梅工場を開設（現アドバンスト・テクノロジー・センター）。

1970年代

1976年：秋田県平鹿郡大森町（現 横手市）に立川工業株式会社（現 株式会社Nui Tec Corporation）を設立。
1977年：愛知県安城市に愛知工場を開設。

1980年代

1986年：4月、株式会社タチエスに商号変更し同年12月東京証券取引所市場第二部に上場（「有価証券上場承認通知書」授与式）。
米国ミシガン州にTACHI-S Engineering U.S.A., Inc.（現TACHI-S NORTH AMERICA, LLC）を単独で設立。

1990年代

1991年：メキシコ アグアスカリエンテス州にIndustria de Asiento Superior, S.A. de C.V.（TACHI-S Mexico）を設立。
1999年：愛知工場に技術センター愛知（TTC-A）を開設。

2000年代

2001年：中国河南省鄭州市に合弁会社 鄭州泰新汽車内飾件有限公司を設立。
2008年：東京都青梅市にアドバンスト・テクノロジー・センターを開設。

2010年代

2012年：東京都青梅市にタチエス技術・モノづくりセンター（現タチエス本社/技術・モノづくりセンター）を開設。
2017年：富士機工株式会社のシート事業を吸収分割し承継した株式会社TF-METALの株式すべてを取得し子会社化。

2020年代

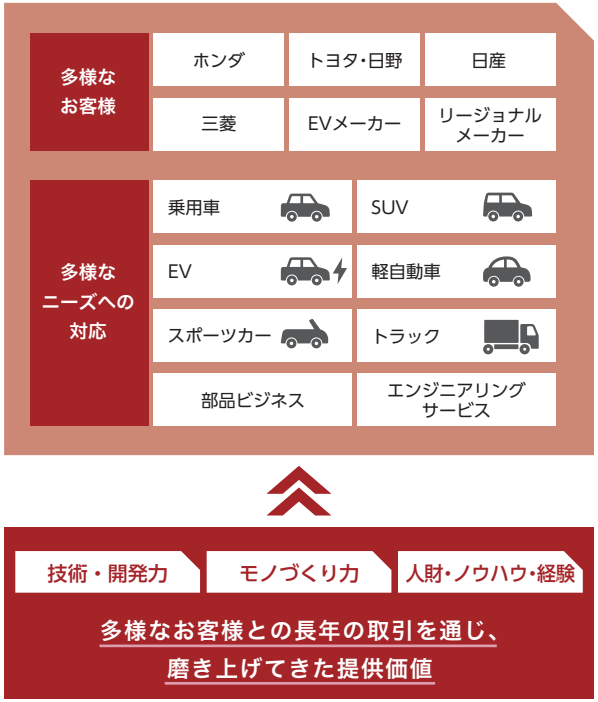
2022年：インド自動車部品大手Uno Minda社と合弁でUno Minda TACHI-S Seating Private Limitedを設立。
2026年：マツダ、スズキ向けの自動車シート、内装部品を製造販売する東洋シート、南条装備工業の事業を承継したTACHI-S TOYO Group Holdingsを企業統合し、タチエスの新たな一歩を進める。

私たちの強み

タチエスが世界中の様々なお客様から「選ばれ続ける企業」であるために注力しているポイントを３つの強みとしてご紹介いたします。

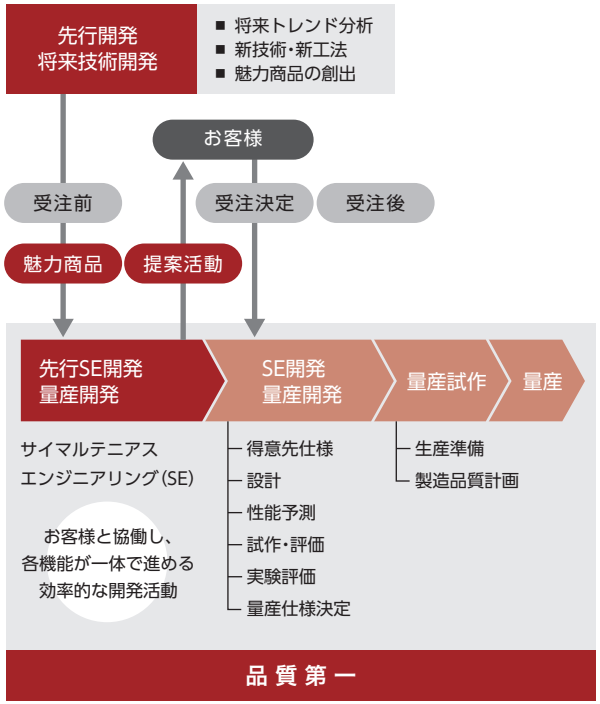
1 独立系の強みを活かし、価値ある提案を続ける

当社は自動車メーカーの系列に属さない、独立系シートメーカーとして国内においてユニークな存在です。当社は様々な自動車メーカーとの取引を通じた知見やノウハウを有しており、幅広いニーズへの対応で培った開発・技術力により、お客様に対し魅力ある商品・サービス提供に努めております。お客様に選ばれ続けるよう、競争力を磨き続ける技術力、提案力を高められる土壌を大切にしております。



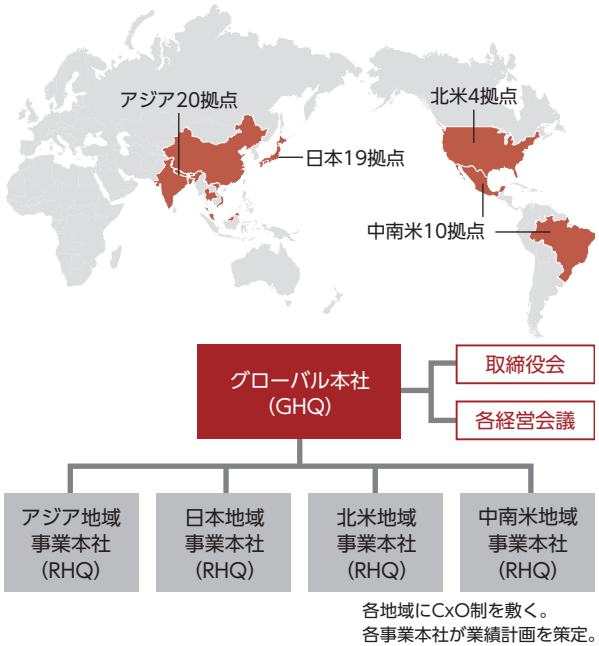
2 先行開発から全プロセスで信頼できる仕組みを提供する

企業ドメインであるグローバルシートシステムクリエイターが示す通り、商品の企画・開発から生産まで、一貫したモノづくりが可能な体制を築いております。当社では、自動車やシートに関する将来トレンドの分析、将来製品の企画構想、デザイン開発、技術開発、生産技術などの先進機能が一体となり、未来の魅力商品の創出や、当社オリジナル技術・工法開発などに取り組んでいます。



3 グローバルで対応できる仕組みを提供する

当社の事業展開は、40年前にアメリカで現地事業を開始して以来、9カ国、53拠点に広がっています。多様なニーズにいち早く対応できるよう、開発・実験・生産体制構築においては、日本国内をはじめ、各リージョンに機能を有しそれらがグループ内で連携することで効率のよい体制を構築しております。事業管理においては、スピード感のある経営判断やアクションがとれるようマトリクス組織を採用しています。具体的には、グループ全体を統括するグローバル本社（GHQ）に取締役会や各経営会議を設置し、各地域（日本、北米、中南米、アジア）には事業を統括する地域事業本社（RHQ）を置き、事業会社が計画した業績を出せるようマネジメントしております。また、事業に対して機能として責任を果たしていくCxO制を2023年から敷いております。



各地域にCxO制を敷く。
各事業本社が業績計画を策定。

私たちの資本

タチエスの価値創造は、人財、技術、信頼、モノづくり、環境という5つの資本によって支えられています。それぞれの資本を育み、相互に結び付けながら、新たな価値を創出し、持続的な成長と社会への貢献を実現していきます。

人的資本

連結従業員数

8,790名

キーポジション後任準備率

100%

当社は、人財を持続的な成長を支える重要な資本と位置づけています。グローバルに展開する事業を支える多様な人財の確保・活躍を推進するとともに、タレントマネジメントを通じて重要ポジションの後継者育成を計画的に進め、持続的な価値創造を支える人財基盤の強化に取り組んでいます。

知的資本

研究開発費の総額

4,713百万円

特許保有件数

691件

国内外の開発拠点が連携し、安全性・快適性・環境性能を追求したシート技術の開発を進めています。また、それらの技術開発成果の権利化に加え、保有特許及び特許情報の活用を通じて研究開発活動を支援し、事業競争力の向上につなげています。

社会関係資本

投資家面談数

52回　29社

(SR/IR合計、2025年度実績)

サプライヤーセルフ・アセスメント回答

235社

(日本/中国、2025年度実績)

当社グループの事業活動は多様なステークホルダーとの良好な関係に基づき成り立っています。これらを通じ、新たなビジネス機会の創出、競争力の向上また投資家との信頼関係の構築を図っております。
現在の中期経営計画では、2030ビジョンとして「社是“互譲協調”に沿い、イノベーションにより提供価値を変革し競争力・収益力を高めると同時に社会課題への対応を通じサステナブル社会の実現に貢献する」を掲げ活動しております。

製造資本

拠点数

9カ国　53拠点

設備投資額

46億円

(2026年3月期)

当社は、モノづくり企業として「小さく・少なく・軽く・短く・美しく」と「自工程完結」を基本思想とするTPW(TACHI-S Production Way)に基づき、安全、品質、改善、標準化を基礎としたモノづくり競争力の強化を図っています。

自然資本

エネルギー使用量

344,332GJ

取水量

191,618m³

自動車シート及び部品の開発・生産を支える自然資本として、エネルギーや水などの資源を活用しています。特にエネルギーについては省エネ活動を通じエネルギーコスト削減と温室効果ガス排出削減を推進しています。水については生産設備の冷却水として循環利用している他、塗装工程の廃水から肥料を取り出すなど有効利用しています。

資本強化に向けて

今後は、グローバルでの人財配置と育成の最適化を進めるとともに、事業戦略と連動した人財ポートフォリオの強化に取り組みます。多様な人財の活躍を通じて、持続的な成長と価値創造を支える組織づくりを推進します。

電動化やADAS※の進展を見据え、快適で豊かな車室空間を実現する技術開発を推進するとともに、技術戦略と連動した知財活動を強化し、事業に貢献する特許の創出・活用及び特許情報による開発支援の充実を図ることで、持続的な競争優位性の向上につなげます。

※ADAS
Advanced Driver-Assistance System

- 投資家への情報提供の充実と対話による信頼関係の深化。
- 取引先と一体となったサプライチェーンの見える化と事業環境変化への迅速な対応の強化。
- 2025年度より、国際標準に沿ったセルフ・アセスメント質問表を用いた自己評価をお取引先様へ依頼しております。2026年度からは、日本、中国に加え、調達機能を有する米州、ASEANの主要拠点へ展開する予定です。

- 当社は自働化やデジタル技術、人とロボットの協働による省人化を推進しております。
- 2025年度は2024年度比5.6%の省人化を達成。2030年には、AI活用やデータ連携を通じ34%低減を目標としています。
- 人にやさしい工場づくりとして、作業工程の改善や重筋作業を削減し誰もが活躍できる職場環境の整備を進めています。

自然環境への負荷を減らし、より少ないエネルギーで事業が行えるよう省エネ活動を強化するとともに、再生可能エネルギーへの転換を加速し、脱炭素社会への貢献と企業価値向上を実現していきます。

価値創造プロセス

［コーポレートビジョン］　人と社会と共生し、快適で豊かな生活空間を創造し続けることで人々を笑顔にする

外部環境 P.15
- 不透明な事業環境
- 地政学リスクの高まり
- 労働人口の減少
- 自動車産業の構造的変化

2030ビジョン
社是“互譲協調”に沿い、イノベーションにより
提供価値を変革し競争力・収益力を高めると同時に
社会課題への対応を通じサステナブル社会の実現に貢献する

資本 P.6

- 財務資本 P.22～23
- 人的資本 P.47～58
- 知的資本 P.28～30 P.57
- 社会関係資本 P.35 P.59 P.66～68
- 製造資本 P.26～27 P.64～65
- 自然資本 P.36～46

戦略

マテリアリティ P.17～18
中期経営計画 P.16～21

バリューチェーン

設計 / 開発 / 製造 / デリバリー

3つの強み
- 独立系の強み
- 先行開発から生産までの一貫体制
- グローバルベースの対応 P.5

企業理念・経営理念
社是・ガバナンス・行動指針
P.73～78

アウトプット

- 安全で高品質な自動車シート・骨組み部品
- 快適で自由な車内をつくる次世代製品
- 車の省エネ・リサイクルに貢献する軽量・エコ製品
- 世界中で無駄なく作る生産・調達の仕組み

自動車シートと機構部品

自動車部品

医療関係

特殊車両

アウトカム

安全・安心
交通事故被害の軽減と、すべての乗員を守る空間の実現

快適・健康
移動のストレスを和らげ、豊かな時間を生み出す車内体験

環境対応
車両の省エネ化と資源循環による、脱炭素社会への貢献

顧客パートナーシップ
完成車メーカーの多様なニーズに応える柔軟なソリューション

企業価値の向上
収益性の改善と資本効率の向上による、持続的な株主還元